

令和2年度

劇場・音楽堂等機能強化推進事業

(劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業)

自己点検報告書

団 体 名	公益財団法人愛知県文化振興事業団	
施 設 名	愛知県芸術劇場	
助 成 対 象 活 動 名	劇場による地域文化向上プロジェクト	
助 成 期 間	5	(年間)
内 定 額	54,654	(千円)

1. 事業概要

(1) 事業計画の概要

全体図（概念図）



(2) 令和2年度実施事業一覧

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	ミニセレ 中川賢一・野村誠ピアノ・コンサート「愛と知のメシアン!!」	2021年1月7日(木)※	出演:中川賢一(ピアニスト)、野村誠(作曲家)	目標値	150
		愛知県芸術劇場小ホール		実績値	81※
2	モーツァルト作曲 オペラ『バスティアンとバスティエンヌ』 一般公演	2020年6月14日(日) (中止)※	※新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、公演中止。	目標値	330
		愛知県芸術劇場小ホール		実績値	—※
3	ミニセレ 勅使川原三郎芸術監督就任記念シリーズ 勅使川原三郎+佐東利穂子「白痴」	2020年7月17日(金)、18日(土)、19日(日)	構成・照明・衣装・選曲:勅使川原三郎 出演:勅使川原三郎、佐東利穂子	目標値	383
		愛知県芸術劇場小ホール		実績値	176※
4	ナタリア・オシポワ&メリル・タンカード「Two Feet」	2020年9月17日(木)、18日(金)、19日(土) (中止)※	※新型コロナウイルス感染症に係る渡航制限のため、公演中止。	目標値	2,538
		愛知県芸術劇場大ホール		実績値	—※
5	ミニセレ 芸文フェス第18回AAF戯曲賞受賞記念公演「朽ちた蔓延る」	2020年11月7日(土)、8日(日)、9日(月) 後日(2020.12.26~2021.1.17)有料動画配信※	作:山内晶、演出:篠田千明 出演:Nanang/アナント・ウィチャクソノ、益山寛司(劇団子供鉅人)、MIKI the FLOPPY(情熱のフラミンゴ)、入馬券	目標値	450
		愛知県芸術劇場小ホール		実績値	103+85 視聴(配信期間中)※
6	ミニセレ 芸文フェス 勅使川原三郎芸術監督就任記念シリーズ 勅使川原三郎「調べ-笙とダンスによる」	2020年12月4日(金)、5日(土)、6日(日)	構成・照明・衣装:勅使川原三郎 出演:勅使川原三郎、佐東利穂子、宮田まゆみ(笙)	目標値	383
		愛知県芸術劇場小ホール		実績値	246※
7	NHK 交響楽団定期演奏会(愛知県芸術劇場シリーズ)	2021年1月31日(日)	指揮:鈴木優人※ 管弦楽:NHK交響楽団	目標値	1,350
		愛知県芸術劇場コンサートホール		実績値	763※
8	ミニセレ 勅使川原三郎芸術監督就任記念シリーズ 勅使川原三郎新作公演	2021年2月21日(日)、22日(月)、23日(火・祝)	構成・振付・美術・照明・衣装:勅使川原三郎 出演:勅使川原三郎、佐東利穂子	目標値	383
		愛知県芸術劇場小ホール		実績値	226※
9	ミニセレ 芸文フェス ダンス・セレクション2020	2020年10月2日(金)、3日(土)	①演出:倉田翠、出演:倉田翠他6名 ②振付・出演:柿崎麻莉子	目標値	142
		愛知県芸術劇場小ホール		実績値	172※
10	第20回AAF戯曲賞募集・選考	2020年5月~2021年3月	審査員:白神ももこ、鳴海康平、羊屋白玉、三浦基、やなぎみわ	目標値	100 作品
		愛知芸術文化センター アートスペースA他		実績値	117 作品
11	舞台芸術スタッフ人材養成ラボ	通年	①②アートマネジメント講座、劇場インターン、お仕事ナビ※ ③劇場職員セミナー※ ④舞台芸術創造セミナー ⑤舞台芸術コーディネーターセミナー※	目標値	700
		愛知芸術文化センター内 オンライン※		実績値	779※

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
12	アーティスト人材養成事業	通年	①合唱団養成(中止)※ ②オルガニスト養成 ③振付家・ダンサー養成※ ④ワークショップファシリテーター等養成※	目標値	200
		愛知芸術文化センター内 オンライン※		実績値	79※
13	(劇場と子ども7万人プロジェクト「小さな島とエヴァ」学校招待公演)※ 前年度中に中止決定のため、欠番。	—	—	目標値	3,000
		—	—	実績値	—
14	劇場と子ども7万人プロジェクト 愛知県芸術劇場オペラ鑑賞教室 2020 モーツァルト作曲 オペラ「バステイアンとバステイエンヌ」学校招待公演	2020年6月19日(金) (中止)※	※新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、公演中止。	目標値	700
		碧南市芸術文化ホール		実績値	—※
15	ファミリー・プログラムワークショップ&げきじょうたんけんツアー	2020年7~8月	①げきじょうたんけんツアー(中止、動画配信に変更※) ②キッズダンスワークショップ(中止※) ③赤ちゃんと踊ろう(オンライン実施※)	目標値	200
		オンライン※		実績値	①1,196 視聴(3月末) ③11※
16	ファミリー・プログラム体験型パフォーマンス「どうする!? アンデルセンさん!」他 ※新型コロナウイルス感染症に係る渡航制限のため、内容変更。	2020年8月	演出: 鳴海康平 出演: 小菅紘史、夏目慎也、南波圭、白神ももこ	目標値	2,500
		愛知県芸術劇場小ホール他 県内3劇場		実績値	184※
17	ファミリー・プログラム THE オルガン NIGHT & DAY 2020	2020年7月29日(水)、 30日(木) 後日動画配信※	出演: 勝山雅世(オルガン)、村本貫太郎(打楽器、DAYのみ)	目標値	2,700
		愛知県芸術劇場コンサートホール		実績値	391+1,238 視聴(3月末) ※
18	栄北まちなか展開連携事業「久屋ぐるっとアート2020」	2020年10月31日(土) ~11月3日(火・休)	参加団体: 愛知芸術文化センター、NHK名古屋放送局、オアシス21 他	目標値	5,000
		栄北地区一帯		実績値	57,821+1,200 視聴(開催期間中)※
19	ソーシャルインクルージョンプログラム ワークショップ ※新型コロナウイルス感染症に係る渡航制限のため、内容変更。	2021年1月28日(木)~ 30日(土)	①ワークショップとは? ②情報保障とは? ③そもそも障がいとは? 各視点から、アートとコミュニケーションを考える	目標値	600
		愛知県芸術劇場小ホール 一部オンライン参加可※		実績値	45+52(オンライン参加)※
20	普及啓発及び障がい者・外国人対応事業	通年	①乳幼児と保護者②入門者③コアファン④障がい者・劇場に来づらい人⑤在住外国人 各対象向けプログラムを実施	目標値	500
		愛知芸術文化センター他		実績値	484 ※

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価

事業計画に必要な構成要素が有機的に関連し、当初の予定通りに事業が進められているか。

国内有数の文化芸術施設である愛知芸術文化センターの一翼を担う県立の芸術劇場として、当劇場の事業は、愛知県が制定・策定した「愛知県文化芸術振興条例」と、「あいち文化芸術振興計画 2022」に位置づけられている。引き続き、県の文化施策の重要な一翼を担っている施設として、2018 年度に採択された「劇場による地域文化向上プロジェクト」の 6 つのプロジェクトを推進すべく、事業実施を目指した。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響により、6 月頃までの事業は中止・延期、7 月頃からは徐々に十分な対策を講じた上で再開できるようになったものの、「密」を避ける必要があること、渡航制限により海外からのアーティスト招聘がかなわないこと等の事情により、多くの事業で中止や内容変更を余儀なくされた。ただし、そうした中だからこそ、「今できることをみなさまとともに」のキャッチフレーズの下、当劇場の 5 つのミッション（「みる：優れた舞台芸術の鑑賞の場を提供する劇場」「つくる：国内外に芸術文化を創造・発信する」「ひろげる：舞台芸術のすそ野を広げる劇場」「つなぐ・そだてる：地域全体の文化力を高める劇場」「こたえる・ささえる：地域の課題に応える劇場」）に立ち返り、その達成に向け、職員が一致団結して臨機応変・柔軟な対応を行い、代替企画の実施やオンライン映像配信等、最大限の努力を行なった。

「発信力強化プロジェクト」の大きな目玉である芸術監督設置については、2020 年度から世界的なダンサー・振付家・演出家である勅使川原三郎氏が就任することとなり、初年度として芸術監督就任記念シリーズの 3 公演を行った。就任後最初の公演である 7 月の「白痴」公演は、奇しくも当劇場にとって、新型コロナウイルス感染症による休館明け初となる自主事業となり、つづく 12 月の「調べ」公演、2 月の新作「ペレアスとメリザンドデュエット版」公演、いずれもチケットは定員を減らした状態ながら予定販売枚数完売と注目度は高く、コロナ禍においても愛知から国内外への創造発信をすることができた。

「普及教育プロジェクト」の 1 つとして行っている「劇場と子ども 7 万人プロジェクト（県内の小中学生 1 学年に相当する 7 万人を劇場に招待する取組み）」については、2020 年度は当劇場においては該当公演が全て中止となったものの、市町村への働きかけを積極的に進め、プロジェクトに賛同する県内 11 市町村に「パートナー市町村」となっていた。

また、『雇用と財源』安定化プロジェクトとしては、自主事業財源拡充に向け直接支援をいただくための「賛助会員制度」を 2021 年度から本格的に開始することとなった（新型コロナウイルス感染症の影響により 1 年後倒し）が、企業団体への働きかけを進めることにより 2020 年度末の時点で既に先行申込を 3 件いただき、2021 年度に入ってから順調に申込をいただいている状況である。

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

本県の持つ文化的資源の一つとして、数多くのバレエ団とそこで学ぶダンサーたちがおり、その中から国内外で活躍する本県出身のトップアーティストも輩出しているものの、トップアーティストのパフォーマンスに県内ダンサーが触れる機会は限定的であり、バレエ仲間やダンサー同士相互の交流の機会も少ない状況である。こうした状況の中、芸術監督に就任した勅使川原氏は、就任前の 2019 年度から地元バレエ団との意見交換を積極的に行なってきており、就任初年度の 2020 年度は、同氏振付・演出によるファミリー向けバレエ公演に向けて、地元の若手バレエダンサーを対象に広くオーディション・ワークショップを実施した。その結果、バレエ団の枠を超えた交流・学びの機会を提供することができ、また同氏のメソッドを学ぶことによる大きな刺激と新たな関係を作り出すことができた。2021 年度にはこれを足掛かりに、新たに創作する「風の又三郎」公演を予定しており、トップアーティストはじめバレエ・ダンスの公演を見る機会もまだ限られている本県県民に鑑賞機会を提供するとともに、芸術監督監修による公演として、国内外への創造発信を行なうことが期待できる。

また、アートによるソーシャルインクルージョン（社会的包摂）をテーマとした取組みとして、2019 年度に、障がいのある子どもも楽しめるパフォーマンス活動を行うイギリスの劇団オイリー・カートを招聘し、音楽家やパフォーマーを対象としたワークショップやアウトリーチのほか、県や関係団体と連携して福祉・教育現場で活動する人も対象としたシンポジウムを行なった。2020 年度はこれを展開させ、同劇団と日本人アーティストによるインクルーシブなパフォーマンス（公演）づくりを行なう予定であったが、渡航制限により海外からのアーティスト招聘がかなわないことから中止（延期）となった。この代替企画として、今後のオイリー・カート公演の実施に向けた環境づくりの場として、アートとコミュニケーションに関してさまざまな視点から考えるワークショップを実施した。オンライン配信も合わせて行なうことで幅広い層の参加を得て、アーティスト・観客・支援者が各立場でできることを話し合うことで、障がいの有無に関わらずそれぞれが主体的に共生社会を作る一員であることを認識する機会をつくることができ、今後につなげることができた。

さらに、劇場の位置する栄北地区の商業施設等との連携によるアートイベント「久屋ぐるっとアート」は 3 回目を迎え、コロナ禍ではあるものの 26 団体が参加し、十分な対策を講じて各種イベントを展開することができた。これにより、行政・民間を問わず、まだ参加を躊躇する各団体の背中を押し、地域活性化活動への参画再開を促した。実施にあたっては 9 月にリニューアルオープンした Hisaya-odori Park（久屋大通公園）とも広報連携し、共に当地域の活性化に寄与した。

(2) 有効性

自己評価

目標が達成し、アウトカムの発現は可能か。

指標に掲げた数値目標の達成状況は下記(※)のとおりである。新型コロナウイルス感染症の影響による想定外の数値もあったが、今後の目標達成が可能となるよう対応を行っており、アウトカムの発現は可能と考えている。

指標①当劇場プロデュース作品の他館上演については、当初計画した公演はいずれも新型コロナウイルス感染症の影響で中止となった一方で、中止公演の代替企画として、劇場プロデュースにて、「どうする!? アンデルセンさん!」を急遽新製作することとなり、当劇場のほかにも県内市町村3劇場計12公演が実現、目標を達成し、コロナ禍においても創造性の高いプロデュース公演を当劇場外へ発信し認知度向上につなげることができた。

指標②大ホール公演入場率については定員制限のある中での数値であること、年3回以上来場者率については来場者アンケートをコロナ対策によりオンライン方式にしたことにより回答率が低下した中での数値であることから、単純比較が難しいものである。ただし、オンライン方式のアンケートに関しては、コロナ禍でなくとも時流に乗って取り入れていくべき事項であるので、正確にニーズを把握するためにも回答率向上のための工夫を行っていきたい。利用者満足度調査については、平均点3.83と目標を達成するとともに、感染症対策の設問も設けることにより、コロナ禍においても鑑賞機会の提供を継続できるようデータ収集を行なった。

指標③「劇場と子ども7万人プロジェクト」参加者数については、当劇場としては、各市町村との連携により当初計画では「小さな島とエヴァ」新城・北名古屋・西尾公演及びオペラ「バステアンとバステイエンヌ」碧南公演を実施し子ども達を招待する予定であったが、いずれも新型コロナウイルス感染症の影響で中止となった。しかし、これまで懸案であった市町村独自実施事業との連動について、これら市町村に対しプロジェクトに賛同いただけるよう働きかけを行ない、まず11市町村にパートナー宣言(協定締結)をしていただくことができたことは、大きな成果である(ただし、パートナー市町村においても公演中止が多く、参加者数の伸びは限定的となった)。加えて、2022年度以降の連携事業の具体的な実施に関する調整も進められている。U-25来場者率については、2020年度はファミリー・プログラムの多くの公演が中止となったことにより子どもの来場者数が伸び悩んだことから、目標達成ができなかった。

指標④舞台芸術人材養成ラボ参加者数については、新型コロナウイルス感染症の影響により、参加者の来場が難しい状況であったことから数字としては目標を達成できなかったものの、オンラインを活用した講座を積極的に行ない、参加者数低下を押しとどめることはできた。市町村との連携事業数については、やはり新型コロナウイルス感染症の影響により中止が多くあった一方、常日頃からの緊密な関係性があつたことによつて、JAPAN LIVE YELL project@AICHIにより市町村との連携に至つた事業が多くあつた。

指標⑤栄北地区パフォーミングアーツイベント開催については、2018年度から実施している「ぐるっとアート」を2020年度も継続して実施することができ、目標達成した。実施にあたっては、JAPAN LIVE YELL project@AICHI 久屋プロジェクトをプログラムの一部として取り入れることで、イベントやアーティストの多彩さ、ボリューム感を出すことができた。ファミリー・プログラムの開催については、2020年度はこれまでどおり夏の1期開催であったものの、指標にかかげる2期開催に向けて現在調整を進めており、2021年度にはその足掛かりとして、ゴールデンウィーク期間に家族で楽しむことができる劇場見学ツアーや舞台SHOWのミニイベントを含むオープンハウスを実施し、2022年度にはこれをさらに展開させる予定である。

指標⑥チケット購入団体数については、2020年度も順調に推移はしたが2021年度から本格開始する賛助会員制度と合わせてさらに企業団体への働きかけを進める予定であり、今後の目標達成が期待できる。愛知県芸術劇場メンバーズ会員数については、コロナ禍で増加率は低かつたものの一定の伸びは見られ、引き続きサービス充実により拡大に努めたい。外部研修受講者については、コロナ禍で事業が中止とつた一方でもできることとして、Off-JTにより職員の様々な能力向上のための機会を作ることができ、目標を達成した。

※2020年度の指標に対する達成状況は次のとおり。

- ①当劇場プロデュース作品の他館上演数：12公演(指標：4公演以上)
- ②大ホール公演入場者率(ダンス・オペラ)：84.5%(指標：70%)
年3回以上来場者数：52.2%(指標：30%)
利用者満足度調査平均点：3.83(指標：3.7(4点満点)以上)
- ③劇場と子ども7万人プロジェクト参加者数：4,415人(パートナー市町村と合算の実績値)(指標：7万人)
U-25来場者率：13.4%(指標：30%)
- ④舞台芸術人材養成ラボ参加者数：779人(指標：年900人以上)
市町村との連携事業数：6事業(指標：8事業以上)
- ⑤栄北地区パフォーミングアーツイベント開催：年1回(指標：年1回以上)
ファミリー・プログラムの開催：1期(指標：2期)
- ⑥チケット購入団体数：14団体(ただし、このうち中止公演あり)(指標：18団体)
愛知県芸術劇場メンバーズ会員数：12,560人(指標：20,000人)
外部研修受講者：のべ173人日(指標：のべ90人日)

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んでいるか。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んでいるか。

事業期間については、新型コロナウイルス感染症の影響による中止・日程変更となった事業が複数見られたが、それを除けば、当初計画に基づき適切に事業を進めることができた。

事業費についても、当初計画（要望時）と決算時の間で 20 パーセント以上の乖離を生じた事業は複数みられたが、いずれも新型コロナウイルス感染症の影響による中止・内容変更（海外アーティストの来日不能、スタッフ配置を最小限に変更等）によるものであった。

新型コロナウイルス感染症の影響による定員制限（2020 年度中は定員の 50%を基準とした）や、ツアー公演の縮小により、入場者数・事業収入（入場料、委託料）についてはともに当初計画から大きく落ち込んだ。しかし、制限した範囲内では完売に近い状況となった公演も相当数あり、コロナ禍において貴重な舞台芸術公演に対する観客の期待もうかがえた（例：「ダンス・セレクション」では、チケット販売状況が好調であったため 1 公演追加し、当初計画より多くの入場者数を得ることができた。また、芸術監督就任記念シリーズの 3 公演はいずれも予定販売枚数完売となった）。また、多くの事業でオンライン配信等を行うことで、劇場に来なくても舞台芸術に触れられるような対応を行ない、それにより事業によっては想定以上の参加の形を得ることもできた（例：夏のファミリー・プログラムは、「今年はおうちで～Enjoy Home」と銘打った特設ウェブサイトを作成することにより、「げきじょうたんけんツアー」、「オルガン NIGHT & DAY」動画の無料配信や「えんどうまめとおひめさま」すぐろく・塗り絵をまとめて特集。その他、AAF 戯曲賞受賞記念公演「朽ちた蔓延る」の有料配信、「劇場職員セミナー」のオンライン講座配信 等）。

(4) 創造性

自己評価

事業計画の内容が、独創性、新規性、先導性等に優れている（と認められる）か。

2020年度も、新型コロナウイルス感染症の影響により中止・内容変更等はあったものの、引き続き、当劇場の自主事業の柱である2つのフェスティバル（「ファミリー・プログラム」、「愛知芸文フェス」）と「ミニセレ」シリーズにより特徴づけを行ないながら様々な創造性豊かな事業展開を行なった。

事業の組み立てにあたっては、2020年度から芸術監督に就任した勅使川原氏と前館長の丹羽アドバイザー、劇場副館長（2021年度からは館長）以下複数の専任プロデューサーが互いに議論を重ね、今後の企画に関する意見交換を行なった。

1 芸術監督設置による創造発信

2020年度から初代芸術監督設置に就任した勅使川原三郎氏は、初年度として芸術監督就任記念シリーズの3公演（新作を含む）を行ない、公演の関連企画としてドローイング展示も行なったほか、地元の若手バレエダンサーを対象に広くオーディション・ワークショップも実施する等、多面的な創造活動を行なった。また、数多くのメディア露出（芸術監督について5件、芸術監督公演について70件、計75件）により、当劇場の認知度向上につながった。就任2年目となる2021年度には、同氏演出・振付の劇場プロデュースによる公演が2つ控えており、ますますのプレゼンス向上が期待できる。

2 プロデュース公演の他館への展開

過去のプロデュース作品の再演として、2020年度は当初計画では「小さな島とエヴァ」（県内市町村3劇場での学校公演を含む）、オペラ「バステリアンとバステイエンヌ」（県内市町村1劇場での学校公演を含む）の上演を予定していたが、いずれも新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった。一方で、海外招聘公演「えんどうまめとおひめさま」県内ツアーが中止となった代替企画として、地元のアーティストやこれまでの事業で関わってきたパフォーマーと共に、当初実施予定であった作品に寄せ、アンデルセンに関連した小作品「どうする！？アンデルセンさん！」を劇場プロデュースで急遽新制作した。この作品は、感染拡大防止対策として、1回4組・15分以内、出演者もマスクをつけた状態での上演という制約を演出上の工夫として敢えて楽しめるようにした点が特徴的で好評を獲得し、当初計画で予定していた8市町村全てとの連携はかなわなかったものの、調整可能となった3劇場での上演が可能となり、コロナ禍においても創造性の高いプロデュース公演を当劇場外へ発信することができた。

3 オルガン公演

日本最大級のオルガンを活用し、2020年度も年4回、対象者や目的を変えて、子どもから初心者、リピーターまであらゆる方にオルガンの魅力を堪能していただけるコンサートを実施した（助成対象事業としては、「THE オルガン NIGHT & DAY 2020」で、オンライン配信も行なった）。実施にあたっては、専属オルガニストが演奏や企画・運営に携わったほか、当オルガニストには、オルガニストの養成やオルガンのメンテナンス等、全方向から当劇場のオルガンに関するサポートをしてもらう体制をとっている。なお、2021年度からはオルガンコンサートはもう1つ増やし年5事業としてより多くの県民へその鑑賞機会を提供するとともに、オルガニスト養成講座は好評によりこれまでの短期コースに加え、実質的に通年受講が可能な長期レッスンコースも設けることとし、さらなる充実を図っている。

4 人材養成事業

これまでに引き続いて2020年度も5つのプログラムによるスタッフ人材養成を展開した。「劇場インターシップ」については新型コロナウイルス感染症の影響により、夏頃までは座学中心の講座に組み替えて開催したところ、大学がオンライン授業中心の時期で実地講座が貴重であったためか、例年より多くの参加者を得ることができた。また、オンラインを活用した講座も積極的に行ない、特に、実践的な内容が好評の「劇場職員セミナー」では配信・登壇とも一部オンラインにて行なったところ、コロナ禍でありながら例年並みの参加者を得ることができた。アーティスト人材育成については、新型コロナウイルス感染症の影響もあり合唱団養成プログラムは実施できなかったが、そのほかのオルガニスト、ダンサー・振付家及びワークショップファシリテーター養成プログラムはアーティストのニーズに合わせた形でそれぞれ実施することができた。これらにより、この地域全体での舞台芸術の振興やアーティスト活動の環境整備につなげることができた。

5 普及啓発事業

2020年度も、①乳幼児と保護者、②入門者、③コアファン、④障がい者等劇場に来づらい人、⑤在住外国人の5方向を対象として引き続き事業を実施した。新型コロナウイルス感染症の影響による公演中止により、その関連企画として実施予定であった企画等が実施できず催事数としては少なくなったものの、オンラインの活用により遠方からの参加も取り込むことができたことは、今後の事業の方向性を検討するきっかけとなった。また、障がい者対応に関しては職員向けの研修を実施することで対応力向上を図ることができ、今後も定期的にも実施することで定着を図っていく。

自己評価

事業の実施によって、当該劇場・音楽堂等の国内外での評価の向上につながっている（と認められる）か。

愛知県芸術劇場の事業は、設置者かつ最大のステークホルダーである愛知県が制定・策定した「愛知県文化芸術振興条例」及び「あいち文化芸術振興計画 2022」に位置づけられた上で、当財団を指定管理者として二度任意指定していることから、文化施策の重要な一翼を担っている施設として県からの評価は高いと言える。加えて、以下の3つの視点から、当劇場に対する各方面からの評価の向上も確認できる。なお、これら当劇場の取組み、特に新型コロナウイルス感染症への対応に関しては 2020 年度に報告書を作成してとりまとめ、関係各所と情報共有を図ることができた。

1 ハード（施設）

当劇場は、多面舞台を有し大規模なオペラやバレエを上演できる圏域最大のホールである大ホール・日本最大級のパイプオルガンを有しクラシック音楽に最適なコンサートホール・ブラックボックスと呼ばれジャンルにとらわれず自由に創造的な表現が可能な小ホールの3つのホールを有し、自主事業と並んで、オーケストラや実演家団体、地域のバレエ団、マスコミ事業部等への貸館事業も盛況で、利用率はコロナ以前には 80%超と高い水準を保持していたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、2020 年度は利用取消しが非常に多く発生した。こうした中、当劇場はオンライン会議により利用者の声を広く丁寧に聴取した上で劇場独自のガイドラインを作成するとともに、県独自の文化芸術支援策により利用料金の還付・減免を行なったほか、抗菌コート・サーマルカメラの無料貸出し等のハード整備も行なうことで、利用者から高い評価を得た。（利用者満足度調査結果：「劇場が実施している新型コロナウイルスへの予防策は全体としていかがでしたか」－平均点 4.87(6点満点)）

2 ソフト（事業）

当劇場は自主事業として、大規模なオペラや海外招聘ダンス公演、様々なプログラムされたオルガンコンサート、小ホールの特徴を活かした先駆的・実験的な「ミニセレ」シリーズ、幅広い対象に向けた人材養成・普及啓発事業など、多種多様な事業展開を行なっている。特に 2020 年度は「ミニセレ」シリーズとして、芸術監督就任記念シリーズ3公演のほか、選りすぐりの才能を紹介する「ダンス・セレクション」、劇場公演とアーカイブのオンライン有料配信のハイブリッドで開催した AAF 戯曲賞受賞記念公演「朽ちた蔓延る」、一度延期となりながらも年度内に公演が実現し、コロナ禍で可能な範囲の観客参加型の委嘱新曲を披露したピアノ・コンサート「愛と知のメシアン！！」等、いずれも新型コロナウイルス感染症による制限の多い中でできることを模索しながら最大限の努力を行い、観客から高い評価を得た。こうした事業に対しては各方面からも注目や関心を集めており、2020 年度は特にコロナ禍での取組みに着目した内容を始め計 404 件のメディア露出があったほか、コロナ禍で例年より数は少ないが全国のべ 10 団体 76 人から、施設の見学・運営状況の視察・学術調査の受入れを依頼された。

3 ヒューマン（人材）

当劇場は、2020 年度から芸術監督に就任した勅使川原氏の下、前館長の丹羽アドバイザー、劇場副館長（2021 年度からは館長）以下音楽・演劇・舞踊の各分野の企画制作を担う専任プロデューサー及び広報マーケティング職員を擁しており、その経験の蓄積により事業展開を行なっている一方、これら職員に対しては、高い専門性を有する人材・地域に貢献する人材として、官学民各分野から研修講師や各種委員としての派遣依頼も下記（※）のとおり多く、そうした点での評価も向上していると言える。2018 年度からは、名古屋芸術大学から半期の講座も受託し、プロデューサーらが交替で講義を実施している。

また、当劇場は名古屋市文化振興事業団と連携協定を結んだり、県内市町村劇場との事業連携、名古屋市内の民間劇場や県外さらにはアジア太平洋地域の劇場とは定期的かつ継続的な情報共有を行なっている（AAPPAC ではオンライン会議にて職員が登壇）他、国内の芸術文化団体の役員を相互に務めるなど、国内外の拠点劇場としての強い信頼や実施事業に対する評価を得ている。加えて、人材養成事業における様々なセミナーでは、「交流」を重要な要素と定め、圏域の人材や情報が双方向に交流するプラットフォームとしても機能している。

※職員派遣先団体

(1) 自治体・公立ホール・公共的団体

文化庁、公益社団法人全国公立文化施設協会、一般財団法人地域創造、名古屋市、豊川市、豊橋市、公益財団法人豊田市文化振興財団、安城市、長久手市、中濃公立文化施設協議会、公益財団法人静岡県文化財団、公益財団法人神奈川県芸術文化財団、公益財団法人熊本県立劇場

(2) 学校等

名古屋芸術大学、日本音楽芸術マネジメント学会

(3) 民間企業・団体等

アサヒグループ芸術文化財団、特定非営利活動法人ジャパン・コンテンポラリーダンス・ネットワーク

(5) 持続性

自己評価

事業計画を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

持続的なアウトカムの発現・定着が期待できるか。

人材面では、当財団の策定した「人材育成計画」に沿って OJT・Off-JT・自己啓発支援・ジョブローテーション及びフォローアップを組み合わせて体系的に行なうことにより職員の能力向上の取組みを行なっており、特に外部研修（Off-JT）については計画的に実施させることで、より高いスキルを備えられるよう促進している。また、専門性と持続性が重要となるポジションについては県派遣職員からプロパー職員への転換を進めており、毎年順次プロパー職員の採用を行なってきた一方、同時に、県とのつながりも踏まえた県派遣職員の適切な配置を行なうことで、県の文化施策の推進にも寄与していく。人材の定着に関しては、職員の無期転換を行う等、労働環境の改善につなげているところである。なお、2021 年度からは組織体制を見直し、理事長兼館長の兼務を解消し、専任の館長（プロパー職員）を配置するとともに、3 部制から劇場運営部・舞台技術部・企画制作部・広報マーケティング部・総務部の 5 部制とするほか、企画制作部長の下にエグゼクティブプロデューサーを設けており、各職員の一層のモチベーションアップを図るとともに今後も持続的な組織体制を整えていく。

財務面では、設置者かつ最大のステークホルダーである愛知県が「愛知県文化芸術振興条例」及び「あいち文化芸術振興計画 2022」に当劇場の事業を位置づけた上で、当財団を指定管理者として二度任意指定していることから、文化施策の重要な一翼を担っている施設として、県から劇場への持続的な支援が裏付けられている。コロナ禍において当劇場は貸館利用者に対し、感染拡大防止のために利用をキャンセルした場合の施設利用料金を全額返還するとともに、感染防止対策を講じた上でのホール利用は施設利用料金を半額に減免する対応をとっているが、これは県との調整により実現したものであり、このことから県の劇場及び文化芸術に対する深い理解が見て取れる。なお、この返還・減免措置は 2021 年度も継続して実施している。採択を受けている「劇場による地域文化向上プロジェクト」は当財団の中長期計画のほか、指定管理者として毎年度行なっているモニタリング調査や利用者満足度調査、経営改善計画等と相互に関連付けられており、これら計画に基づき、今後も県からの支援を受けて着実に事業展開をしていく。さらなる安定的な財源確保と事業拡大のために導入する「賛助会員制度」については、新型コロナウイルス感染症の影響で企業団体への働きかけが難しい状態が続いたため当初予定した 2020 年度からの募集開始はできなかったものの、3 月から一部先行申込をいただくとともに 2021 年度からは本格募集を開始し、コロナ禍でありながら順調に賛同をいただいている。多くの法人・個人の皆様に劇場事業を支援いただけるよう、地元企業等を中心に働きかけを進めていく。

ネットワーク形成については、県内の市町村劇場をはじめ、国内先進劇場との共同招聘・共同制作等による事業連携を行なうとともに、国内外の劇場との定期的かつ継続的な情報共有を行なっているほか、国内の芸術文化団体の役員を相互に務める等により図ってきたところであり、コロナ禍において一層連帯感を強めている。加えて、2020 年度からの勅使川原氏芸術監督就任によって、同氏の持つネットワークも活かした国内外の劇場やアーティストとの連携事業が 2021 年度以降計画されていることから、当劇場のさらなる国際プレゼンスの向上が期待できる。

以上のように、官民からの支援を受けながら各種計画に基づき実行し、状況に応じて定期的に検証・改善を行なって事業を展開する組織体制を整え、また維持・強化するための取組みを行なっていることから、アウトカムの定着・持続は可能である。